

おまかせ！エコ共育プロジェクト

1

[何のために？]

ねらいや効果

日進らしい環境共育プログラムを通して、市民全体の環境に対する感性をみがいていきます。

関連する環境指標 (詳細は資料編参照)

環境感性を育む人数、学校への市民講師参加コマ数、グリーンマップづくりへの参加者数



2

[何をいつどのように？]

具体的な進め方

□A: 市民主体・行政共働 / □B: 行政主体・市民参加

1) 市民向け環境共育プログラムを進める

	21-25年度	26-30年度
各小学校区でのグリーンマップ ¹² づくりの実施	□A ●●●●●	●●●●●
環境連続講座の企画・実施	□A ●●●●●	●●●●●
環境紙芝居の作成と活用	□A ●●●●●	●●●●●

2) 学校向け環境共育プログラムを進める

児童・生徒向け環境共育プログラムの提供	□A ●●●●●	●●●●●
学校教員向け環境共育実践講座の実施	□A ●●●●●	●●●●●

3) プログラムの開発と人材の発掘・育成を進める

各種環境分野の達人・名人の発掘と環境人材バンク化	□A ●●●●●	●●●●●
地域の資源を活かした環境共育プログラムの研究と開発	□A ●●●●●	●●●●●
市内外の環境共育プログラム提供者ネットワークづくり	□A ●●●●●	●●●●●



世界共通のグリーンマップアイコン（絵記号）の例

¹²地域の人達によって作られた環境情報地図。世界共通のアイコンがある。身近な地域の宝ものや問題点を地図にすることで、コミュニティを持続させるための問題意識と行動力を育む。

3

[どこで?] 実施場所

小学校区、学校、幼稚園・保育園

4

[誰が誰と何を?] 取組主体と関係者の役割

取組主体 市民団体（地域自治組織、環境パートナーシップ組織）
市民（環境の達人・名人）
教育機関（学校・教育委員会）
市（水と緑の課、環境課、学校教育課、生涯学習課）

市（行政）

環境連続講座の継続開催
（市民団体への委託を含む）
学校との連絡・調整
取組主体への支援

市民団体

プロジェクトの推進
プログラム実施への協力

市民（滞在者等を含む）

プロジェクトへの参画
講座や活動への参加

事業者

活動への協力

教育機関

環境共育と研修の実施
地域等の外部講師の活用

市職員

専門分野での支援

注） □：取組主体としての役割、 ○：関係者としての役割

5

[補足は?] 備考

参加型の環境共育プログラム（例）

動物サミット&地球サミット

参加児童がいろいろな役になりきって、環境問題について討議するプログラム。実施する場においての留意点、実際の進め方について提示します。（低学年「動物サミット」高学年「地球サミット」）

環境のメガネをかけて、まち探検！

環境にいいもの・悪いもの・素敵なものなどを探しながら校区を歩き、アイコンを使ってグリーンマップを作成するワークショップです。

エンジョイ・エコクッキング

環境にやさしくて体が元気になるお料理って？ 食へのこだわりと地球へのいたわりを大切にしたい調理主体のプログラムです。（小学5・6年生の家庭科を想定した実践例）

出前環境講座プレゼンテーション

各教科学習または総合学習の時間において、依頼があればどの学校にも出かけます。（例：日進市の環境、ゴミの分別、公害問題、環境ホルモン、エネルギー問題、オゾン層破壊、地球温暖化、森林破壊、水不足と食糧危機、飢餓貧困、江戸時代の暮らし、戦争と平和、持続可能な社会など）